

衛生研究所課題評価専門部会  
平成17年度課題評価結果報告

平成17年7月

衛生研究所課題評価専門部会

## は　じ　め　に

衛生研究所は、地域における科学的かつ技術的中核機関として、調査研究、試験検査、情報の収集・分析・提供、研修指導を行うこととされています。その中で、調査研究は、地域保健対策、健康危機管理等を推進するために重要な業務です。

衛生研究所で行われる研究は、関係部局、健康福祉センター等の連携のもとに県民ニーズ、行政ニーズを反映させたものであり、評価対象となる研究課題も年ごとに内容が精査され充実したものとなっております。

課題評価専門部会は平成17年6月及び7月に開催し、地域保健対策を効果的に推進し、公衆衛生の向上及び増進を図るため必要性、重要性が高いと認められた重点課題8課題(事前評価4課題、中間評価4課題)について、県民のニーズを踏まえた研究であるか、研究員のレベルアップを踏まえた研究計画であるか、研究資源は妥当であるかなどの見地から評価を行い、その結果をまとめました。

今回の課題評価により、衛生研究所における研究課題がより充実したものになり広く県民の理解が得られるとともに、千葉県民の安全で健康な生活に資することを期待します。

平成17年7月

衛生研究所課題評価専門部会　部会長　　岡部　信彦

# 目 次

1	衛生研究所課題評価専門部会 部会構成員名簿	1
2	課題評価結果	
(1)	総括	2
(2)	事前評価	
	健康危機管理に関連する理化学検査体制の整備	4
	食品由来の内分泌攪乱化学物質の健康リスク評価に関する研究 (プロジェクト研究)	5
	千葉県の骨密度測定値の年齢階級分布と対象別指導方法 に関する研究	6
	県内市町村における運動による健康づくり・介護予防事業の有効性 とリスクの評価	7
(3)	中間評価	
	千葉県下環境中動物ウイルスのサーベイランス・モデル構築のための 調査研究(新興感染症のモデルとして、コロナウイルスの調査を実施)	8
	マーモセット科サルを用いたムンプスウイルス神経病原性の解明	9
	千葉県における結核患者の結核菌 RFLP 解析及び患者の疫学情報 のデータベース構築について	10
	千葉県民の健康増進及び疫学調査のための老人保健法に基づく 基本健康診査データの収集解析システムの確立	11
3	衛生研究所課題評価専門部会開催日	12

1 衛生研究所課題評価専門部会 部会構成員名簿

区分	所属・役職	氏名
部会長	国立感染症研究所 感染症情報センター長	おかべ のぶひこ 岡部 信彦
部会 構成員	産業医学総合研究所 作業条件適応研究部長	おがわ やすたか 小川 康恭
部会 構成員	東京慈恵会医科大学 微生物第一講座教授	こんどう かずひろ 近藤 一博

## 2 課題評価結果

### (1) 総括

衛生研究所における事業は、県民生活に直結した試験検査、健康危機発生時及び地域保健対策等の調査、感染症サーベイランス等の調査業務が主要なものであり、研究課題も、これらに関連した研究という特徴があります。

課題評価専門部会では、県の事業と関連を持っている研究であるか、県民ニーズを踏まえた研究であるか、また、研究資源について妥当であるかというような観点から、衛生研究所の全研究課題のうち重点課題とされた事前評価4課題、中間評価4課題について評価を行いました。

その評価の課程の中で、疑問な点、改良すべき点を指摘し、その一部について変更等をしていただきましたが、概ね納得を得られるものとなりました。

全体として、県民ニーズのある課題であり必要性がある、また、衛生研究所の特徴を生かした数少ない研究であり県民だけでなく国民にとって重要な課題であるとの評価になっています。しかし、いくつかの課題においては期待される成果を得るために検討を加える必要があると指摘をしたところです。

各課題の総合評価については、下表のとおりです。

なお、研究課題の評価項目ごとの所見・指摘事項等を含む詳細については別添の課題評価票のとおりです。

研究課題名	総合評価
事前評価 健康危機管理に関連する理化学検査体制の整備	研究課題として評価できる。
事前評価 食品由来の内分泌攪乱化学物質の健康リスク評価に関する研究（プロジェクト研究）	研究課題として評価できる。
事前評価 千葉県の骨密度測定値の年齢階級分布と対象別指導方法に関する研究	研究課題として評価できる。
事前評価 県内市町村における運動による健康づくり・介護予防事業の有効性とリスクの評価	研究課題として評価できる。

研究課題名	総合評価
<p>中間評価 千葉県下環境中動物ウイルスのサーベイランス・モデル構築のための調査研究 (新興感染症のモデルとして、コロナウイルスの調査を実施)</p>	<p>研究課題として評価できる。</p>
<p>中間評価 マーモセット科サルを用いたムンプスウイルス神経病原性の解明</p>	<p>研究課題として高く評価できる。</p>
<p>中間評価 千葉県における結核患者の結核菌 RFLP 解析及び患者の疫学情報のデータベース構築について</p>	<p>研究課題として高く評価できる。</p>
<p>中間評価 千葉県民の健康増進及び疫学調査のための老人保健法に基づく基本健康診査データの収集解析システムの確立</p>	<p>研究課題として高く評価できる。</p>

## 平成17年度衛生研究所課題評価票(事前評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	健康危機管理に関連する理化学検査体制の整備		
研究期間	平成18年4月から平成19年3月まで(1年間)		
研究目的・計画	<p>目的: 飲食物中に混入が疑われる化学物質を迅速に特定する検査体制の確立。</p> <p>計画:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検査方法の体系付け</li> <li>既存の機器、職員の経験・知識を整理し、原因物質究明の体系を明確化する。</li> <li>次いで、必要に応じ、検体に液体試料(ジュース・牛乳)、液体及び固体混合試料(カレー)を用い、ADIの概念を基にした添加量で、添加回収実験を行い、回収率・妨害の把握・一連の検査に要する時間を求める。</li> <li>迅速判定法の導入検討</li> <li>水溶性物質(シアン化合物、アジ化物、亜ひ酸、ひ酸、有機酸、陰イオン類)について一斉検査が可能なキャピラリー電気泳動装置(CE)を用い、それら化学物質の有無を速やかに判断し、その後の原因物質特定検査を容易にする。</li> <li>次いで、検体に液体試料(ジュース・牛乳)、液体及び固体混合試料(カレー)を用い、中毒量等を基にした添加量で、添加回収実験を行い、CEを用いた検査における回収率・妨害の把握・一連の検査所要時間を求める。</li> <li>簡易検出キットを用い、妨害物の影響も含め原因化学物質の判定が可能か否か検討する。</li> </ul>		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性 (県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・県民の危機管理上重要性が高い。 ・飲食物混入化学物質を迅速に特定する検査体制の確立は千葉県民にとって有益である。
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・県の研究機関が行う意義は高い。 ・県として飲食物混入化学物質を効果的に特定する検査体制の確立は県民へのサービスの面からも重要である。
3. 研究計画の妥当性 (研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3	・日常的依頼検体が非常に少ないことから、迅速に測定できる体制を確立するためにはより多くの測定経験を積むための方策が必要である。
4. 研究資源の妥当性 (研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・妥当と考える。
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・危機管理のみならず、日常の食品衛生管理またその対応等にも応用可能であろう。 ・飲食物中の化学物質迅速測定体制を確立するということは、様々な条件における測定技術が確立することであるから波及効果は大きい。
6. その他			
総合評価	飲食物中の化学物質迅速測定体制を確立するということは、機器整備ばかりではなく従事技術者の知識、技量の向上が伴わなければならない。そのためには多くの経験を積み重ねることも重要であり、そのような視点からの計画も必要である。		

平成17年度衛生研究所課題評価票(事前評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	食品由来の内分秘攪乱化学物質の健康リスク評価に関する研究(プロジェクト研究)		
研究期間	平成18年4月から平成21年3月まで(3年間)		
研究目的・計画	<p>環境ホルモンのヒトへの取り込みは食品経路が最も大きい。しかし、食事由来のこれら物質がヒトの健康にどのような影響を及ぼす可能性があるかについての明確な結論は得られていない。</p> <p>そこで、これまで当研究所で遂行してきた環境ホルモンに関する</p> <p>(1)環境ホルモンのトータルダイエツスタディ</p> <p>(2)イェバエを用いた多世代影響試験法の開発</p> <p>(3)こどもの健康に関する調査</p> <p>の3研究を統合し、総合的にリスク評価を行う基盤をつくる。</p>		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性 (県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の健康管理、維持向上に関連しており重要性が高い。</li> <li>・環境ホルモンの影響を調査することは国民的課題であり重要である。</li> <li>・本研究計画は、ビスフェノールを中心とした千葉県下における調査の蓄積の上に成り立っている。研究を継続することで、県民の生活環境の変化などに対する貴重なデータがさらに蓄積されることが期待される。</li> </ul>
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の研究機関が行う意義は高い。</li> <li>・環境ホルモンの影響は広範であり県単位で行うことも非常に重要である。</li> <li>・ビスフェノールを中心とした千葉県下における調査の蓄積の上に成り立っており、県が行う必要性が高いと考えられる。</li> </ul>
3. 研究計画の妥当性 (研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のステップが明確である。</li> <li>・「こどもの健康に関する調査」の計画では環境ホルモン暴露の評価を伴っていないので本研究課題とのつながりが非常に弱い。</li> <li>・一見、項目が多岐にわたり過ぎている感があるが、すでにデータの収集が済んでいるものもあるとのことなので、あまり無理のない計画であると考えられる。</li> </ul>
4. 研究資源の妥当性 (研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の機材等が有効に利用される計画となっている。</li> <li>・妥当である。</li> <li>・研究費を非常に効率よく使用しており、無駄のない計画であると考えられる。</li> </ul>
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果が直ちに県民の健康向上等に結びつくことはないと思われるが、健康被害の未然防止という点で重要である。</li> <li>・「環境ホルモンのトータルダイエツスタディ」は波及効果が非常に大きい。「イェバエを用いた多世代影響試験法の開発」は基礎的な研究であり長い目で見ることが必要である。</li> <li>・環境因子の影響に関する検査を継続することにより、環境の変化や影響に対する貴重なデータが蓄積できると考えられる。イェバエを用いた研究は、研究効果に未知数な部分もある。</li> </ul>
6. その他			
総合評価	<p>「こどもの健康に関する調査」においては親の食事調査とリンクすることなど、環境ホルモン暴露評価と組み合わせることを考えるべきである。</p> <p>全体的に効率の良い計画であり、必要性も高いものと考えられる。</p>		



## 平成17年度衛生研究所課題評価票(事前評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	千葉県の子骨密度測定値の年齢階級分布と対象別指導方法に関する研究		
研究期間	平成18年4月から平成20年3月まで(2年間)		
研究目的・計画	県内市町村を対象に現在行っている骨密度検診結果より、県民(女性)の年齢階級別測定値・判定区分の分布を、超音波測定とDEXA測定の別に把握する。また、対象に応じた事後指導とそのフォローアップについて過去5年間について調査し骨密度検診の課題について検討する。骨密度検診及び測定値の有効活用の一手法として、運動による健康づくり・介護予防教室の効果判定への活用も検討する。		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性 (県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・県民の健康管理、維持向上に関連しており重要性が高い。 ・現在県内で行われている骨粗しょう症検診の現状を把握し問題点を明らかにすることは重要である。 ・このような調査は、他に大きな規模がなく、これまでのデータの蓄積も利用できることから、県民の健康管理にとって有用なものと考えられる。
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・県の研究機関が行う意義は高い。 ・県内で行われている事業の評価であるから必要性はある。 ・現時点のこのような研究・調査に関連した厚生労働省の研究班などが無いため、県で行うことの意味は大きいと考えられる。
3. 研究計画の妥当性 (研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	・既存のデータの活用、分析という点で評価できる。 ・妥当である。 ・これまでに蓄積したデータを解析することが中心となるため、計画に無理がない。
4. 研究資源の妥当性 (研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	・妥当である。 ・これまでに蓄積したデータを有効利用することが主とした目的となっており、研究資源の妥当性は高いと考えられる。
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きいか。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・研究の成果は県民の健康評価、向上等に速やかに反映されることが期待されると同時に、疫学研究としても重要である。 ・測定評価の標準化という面で波及効果が大きい。 ・この研究で得られた成果を発展させることにより、今後の疫学的研究への発展が期待できる。
6. その他			
総合評価	測定評価の標準化という面で成果が期待できる。前向き調査においては、生活習慣及び食事調査などをリンクさせることにより更に波及効果の大きい成果が期待できる。これまでの研究成果を有効に活用できる点が高く評価できる。この研究成果を元に、今後の調査項目の絞り込みができると、更に効果的な疫学調査ができることが期待される。		

## 平成17年度衛生研究所課題評価票(事前評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	県内市町村における運動による健康づくり・介護予防事業の有効性とリスクの評価		
研究期間	平成18年4月から平成21年3月まで(3年間)		
研究目的・計画	運動による健康づくりの実践には、運動実施のための施設や機器などのハード面、運動指導者や適切な運動プログラムの提示、運動継続をサポートする仕組みなどのソフト面の支援が重要である。県内市町村では、様々な形で運動による健康づくり・介護予防事業が実施されているが、それらの有効性の費用面や参加者のQOL(生活の質)も含めた評価と参加者のリスクを検討し、根拠に基づく健康づくりの推進のために、地域で取り組みやすい方法・ノウハウを提示する。		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性 (県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	・県民の健康管理、維持向上に関連しており重要性が高い。 ・県が行っている事業を評価するための方法を研究することは非常に重要なことである。 ・本研究は、県民の生活向上に直接つながるものであり、県民ニーズを踏まえたものと考えられる。
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	・県の研究機関が行う意義は高い。 ・必要性は高い。 ・県が養成している健康生活コーディネーターの教育・活用に有用な研究であり、県が行う必要性の高い研究と考えられる。
3. 研究計画の妥当性 (研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・方法論として困難なものでなくまた極めて実際的と考える。 ・成果の客観的な評価法や、データ収集における客観性など、この種の研究で問題になる部分に配慮があり、妥当な計画と考えられる。
4. 研究資源の妥当性 (研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	・妥当である。
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	・研究の成果は県民の健康評価、向上等に速やかに反映されることが期待される。 ・事業評価法のモデルケースとして波及効果は高い。 ・健康づくりに関する実態調査のみならず、将来的な人材育成の計画作成に対する波及効果も大きいものと期待される。
6. その他			
総合評価	事業評価法の研究は非常に重要であり、是非進めるべきであると考え。研究計画はもう少し具体的に記載すべきである。 県が推進している健康生活コーディネーターの育成など、県の事業と密接な関係にある研究計画であり、県民ニーズや波及効果の高い研究であると考えられる。		

# 平成17年度衛生研究所課題評価票(中間評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	千葉県下環境中動物ウイルスのサーベイランス・モデル構築のための調査研究 (新興感染症のモデルとして、コロナウイルスの調査を実施)		
研究期間	平成16年4月から平成19年3月まで(3年間)		
研究の進捗状況及び今後の研究計画	平成16年度は、イヌ・ネコ由来149検体、ヒト58検体、その他の動物121検体についてRT-PCR、ウイルス分離による検出を行った。検出率はイヌで最も高く30%、ヒト14%、その他の動物17%であった。ウイルス分離はできていない。今後、ウイルスを分離すること、県下の状況を広く把握することによりサーベイランスシステムを構築していく予定である。		
評価項目	評価	所見・指摘事項等	
1. 研究課題の重要性 (県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・本研究が直接県民の健康に結びつくわけではないが、動物由来感染症に対する警戒と注目の中、獣医師会との共同研究を開始する意義は高いと思われる。 ・千葉県は成田空港を抱えているため、外来の感染症が非常に入りやすい地域であると考えられる。このため、人畜共通感染症に対するサーベイランスシステムを構築することは重要であると考えられる。
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.6	・県の研究機関が地元大学と共同研究として行う意義は高い。 ・県が行うべき仕事の一つと考える。 ・イヌ・ネコを媒介とする感染症は、短期間に県下に拡散する可能性があり、県がサーベイランスシステムを保有することは重要であると考えられる。
3. 研究計画の妥当性及び達成の可能性(研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。また、研究計画を達成することができるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3	・研究者が検体数を増やす必要があると指摘しているように、検体収集方法の研究が伴わなければ単に遺伝子解析法の確立だけであり、サーベイランスシステムモデル構築は不完全で終わる可能性がある。
4. 研究資源の妥当性 (研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3	・外部資金の導入は評価される。 ・検体収集方法の研究を進めるための予算追加が必要である。 ・上記の様に、解析手段などの変更が望ましいと考えられる。
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.3	・研究成果は動物コロナウイルスの研究にとどまらず、動物由来感染症サーベイランス構築の基礎となることが期待される。 ・サーベイランスシステムモデルが構築できれば波及効果は高い。
6. その他			
総合評価	動物コロナウイルスサーベイランスシステムモデルの構築は基本的に重要なことである。しかし、サーベイランスシステムが機能するためには検体が効果的に集まってこなければならない。この面での研究が伴うことを期待する。 イヌ・ネコを媒介とする感染症をサーベイランスするシステムの構築は、成田空港を抱える千葉県にとって、非常に重要なシステムであると考えられる。		

# 平成17年度衛生研究所課題評価票(中間評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	マーモセット科サルを用いたムンプスウイルス神経病原性の解明		
研究期間	平成17年4月から平成20年3月まで(3年間)		
研究の進捗状況及び今後の研究計画	ムンプスウイルスの神経病原性を確実に評価できる動物モデル系は確立されていない。最近、私たちはマーモセットがムンプスウイルスに対して高い感受性を持っていることを報告した。また、哺乳ラットを使って有望な結果が得られたとの報告もある。本研究ではマーモセットを用いて、ワクチン株の持つ神経病原性を確実に評価できる動物モデル系の確立を目指す。さらに、これらの動物モデル系とリバースジェネティクス(遺伝子組換え)の技術を用いて、未だに明らかにされていないムンプスウイルスの神経病原性に関わる病原遺伝子の特定を試みる。		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性(県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>本研究が直接県民の健康に結びつくわけではないが、我が国における今後のムンプス対策に結びつく公衆衛生対策上重要な研究である。</li> <li>ワクチン株の持つ神経病原性を評価できる動物モデル系の確立は非常に重要な研究である。</li> <li>本研究の恩恵を受けるのは、県民を含めた全国民であるため、県民のニーズには限定しにくい、千葉県で行われる非常に完成度の高い研究であると言える。</li> </ul>
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の研究機関で本研究を行えるところはまれである。(千葉県血清研究所における研究が引き継がれている)</li> <li>研究課題そのものは国の仕事であるが、この研究を国と共同で行い研究所の研究レベルを維持することに意義がある。</li> <li>本研究においては、申請者の研究水準が国際的にみても非常に高いため、他の研究者が代行することができない。</li> </ul>
3. 研究計画の妥当性及び達成の可能性(研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。また、研究計画を達成することができるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>国との共同研究が実施されており、妥当である。</li> <li>本研究は、ムンプスワクチンの検定において最も有効な検査となる可能性が高く、妥当な計画であると考えられる。</li> </ul>
4. 研究資源の妥当性(研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部から研究資金を獲得していることは高く評価できる。</li> <li>本研究は、他の競争的資金の獲得や有力な研究者との共同研究が適切に行われており、研究の遂行が確実に進められるものと考えられる。</li> </ul>
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国におけるムンプスワクチン導入に際しての安全性の指標となり得ることが期待される。</li> <li>技術的波及効果は高い。</li> <li>ムンプスワクチンは、他のワクチンに比べて問題の多いワクチンであり、検定システムの構築は、ムンプスワクチンの安全性の向上のみならず、国民のワクチンに対する理解を深め、防疫システム全体の強化につながるものと考えられる。</li> </ul>
6. その他			
総合評価	研究課題そのものは国の仕事であるが、この研究を国と共同で行い研究所の研究レベルを維持することに意義がある。また、外部研究資金を獲得していることでも高く評価できる。本計画は、申請者の高い学問的水準と有力な共同研究者の協力により、高い波及効果と実現性を伴う計画になっていると考えられる。		

# 平成17年度衛生研究所課題評価票(中間評価)

部会構成員氏名

岡部信彦
小川康恭
近藤一博

研究課題名	千葉県における結核患者の結核菌RFLP解析及び患者の疫学情報のデータベース構築について		
研究期間	平成15年4月から平成19年3月まで(2年間延長)		
研究の進捗状況及び今後の研究計画	<p>千葉県内の新規登録結核患者について、菌株遺伝子情報及び疫学情報をデータベース化し、さらに保健所などでも活用できるシステムを構築する。</p> <p>このシステムでは、原因となった菌株の一致性及び関連する疫学情報の一致性を検索できるので、事例ごとの感染源、感染経路などを明らかにするだけでなく、事例間の関連を明らかにすることが可能で、拡大防止対策において有用と考えられる。</p> <p>本システムの構築にあたって当初RFLP法(Restriction fragment length polymorphism)によるデータを用いる予定であったが、RFLP法は解析度に優れるが画像解析データで取り扱いにくいいため、解析度に問題があるが数値データで取り扱いやすいVNTR(Viable Number of Tandem Repeat)法を組み合わせる方法について検討を行う。</p>		
	評価項目	評価	
1. 研究課題の重要性(県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の健康管理、維持向上に関連しており重要性が高い。</li> <li>・新規登録結核患者について、菌株遺伝子情報及び疫学情報をデータベース化し、さらに保健所などでも活用できるシステムを構築することは非常に重要である。</li> <li>・結核感染の重要性は、ますます高くなっており、集団感染などが発生した際には、県が中心となった感染経路の特定が期待される。</li> </ul>
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の研究機関が行う意義は高い。</li> <li>・必要性は高い。</li> <li>・結核の感染経路の特定は、感染防御の対策を立てるために重要である。検査体制は、自治体単位で整っていることが望ましく、県で行う必要性があると考えられる。</li> </ul>
3. 研究計画の妥当性及び達成の可能性(研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。また、研究計画を達成することができるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・实际的である。</li> <li>・システム構築へ向かって着実に研究を進めている。</li> <li>・結核菌の感染経路を迅速に特定するための、VNTR法の開発など方法論は適切であると思われる。研究資料は十分に集まっているとのことなので、今後の進展が期待される。</li> </ul>
4. 研究資源の妥当性(研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内ではあるが、外部資金の導入は評価される。</li> <li>・妥当である。</li> <li>・基礎的研究と、その応用による研究がうまく組み合わせられており、予算計画も適切であると考えられる。</li> </ul>
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果は公衆衛生上極めて価値あるものであり、県民の健康維持向上への寄与が期待される。</li> <li>・波及効果は高い。</li> <li>・本研究が成功すれば、結核の集団発生時などにおける感染経路の特定が従来よりの迅速に行いえるようになる。このため、感染拡大の防止や予防に対する波及効果は大きいと考えられる。</li> </ul>
6. その他			
総合評価	<p>新規登録結核患者について、菌株遺伝子情報及び疫学情報をデータベース化し、さらに保健所などでも活用できるシステム構築へ向けて着実に研究を進めている。</p> <p>本研究は、研究の目的が明確で波及効果も大きい研究であると考えられる。また、県民のニーズにも良く合致している。</p>		

## 平成17年度衛生研究所課題評価票(中間評価)

部会構成員氏名

岡部 信彦
小川 康恭
近藤 一博

研究課題名	千葉県民の健康増進及び疫学調査のための老人保健法に基づく基本健康診査データの収集解析システムの確立		
研究期間	平成15年4月から平成19年3月まで(2年間延長)		
研究の進捗状況及び今後の研究計画	<p>老人保健法に基づいた40才以上の地域住民を対象とした基本健康診査(以下基本健診)事業には千葉県全体で毎年60万人(内集団検診分20万人)が受診している。本事業の目的には住民個々人の健康増進だけではなく、その健診結果を集積して経年的変化や、他の市町村との比較により、それぞれの市町村が健康増進事業の評価を行うことがある。</p> <p>千葉県の標準化された基本健診結果を集積する「基本健康診査データの収集解析システム」を構築してこれらの集積データを用いて解析を行い、市町村の健康増進事業を支援することを計画した。</p>		
	評価項目	評価	所見・指摘事項等
1. 研究課題の重要性(県民ニーズ等をふまえたものであるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の健康管理、維持向上に関連しており重要性が高い</li> <li>・千葉県の標準化された基本健診結果を集積する「基本健康診査データの収集解析システム」を構築するとともに、市町村の健康増進事業を支援する体制作りの研究を行うことは重要である。</li> <li>・県下全体において検査法の標準化を行い、各市町村毎のバラツキのない疫学調査を行うことの意義は大きく、県民の健康増進に貢献できるものと考えられる。</li> </ul>
2. 研究課題を県が行う必要性(国、市町村、民間に任せられないか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の研究機関が行う意義は高い。</li> <li>・必要性はある。</li> <li>・県という規模によって行うことにより、件数の大きい調査が可能になっている。また、県が行うことにより、検査値の標準化といった、民間では難しい問題もクリアしている。</li> </ul>
3. 研究計画の妥当性及び達成の可能性(研究計画が研究を遂行するのに適切であるか。また、研究計画を達成することができるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のシステムにあるものに分析法の検討であり意義が高い。</li> <li>・データベースを増やすこと、基本情報を標準化して収集することは重要である。妥当性は高い。</li> <li>・各市町村において収集されたデータを有効に活用しており、有用なデータベースの構築が期待される。</li> </ul>
4. 研究資源の妥当性(研究費や人材等が研究を遂行するのに適切であるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妥当である。</li> <li>・これまでに集積したデータを有効活用しており、効率のよい研究であると考えられる。</li> </ul>
5. 研究成果の波及効果及び発展性(研究成果が試験研究機関の関係する分野に及ぼす影響は大きい。また、将来の発展性があるか。)	5.非常に高く評価できる 4.高く評価できる 3.評価できる 2.見直せば評価できる 1.全面的に見直すべきである	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の成果は公衆衛生上極めて価値あるものであり、県民の健康維持向上への基礎データとなることが期待される。</li> <li>・波及効果はある。</li> <li>・千葉県下における標準値という貴重なデータベースが構築される事により、市町村における検診や全国規模での比較など、健康管理に関する有用な知見が得られるものと期待される。</li> </ul>
6. その他			
総合評価	<p>千葉県の基本健診結果を標準化して集積する「基本健康診査データの収集解析システム」を構築するとともに、市町村の健康増進事業を支援する体制作りの研究を行うことは健康増進事業を効果的に進める上で非常に重要である。今後は今までの成果を踏まえて健診結果の標準化に関する研究を進めるのが重要である。</p> <p>本研究は、県下における健康検査データの蓄積に留まらず、市町村毎の検査のバラツキをなくし、検査の信頼性を向上させる効果もある。このため、波及効果の大きい、県民ニーズに合致した研究であると思われる。</p>		

### 3 衛生研究所課題評価専門部会開催日

#### < 第 1 回 >

1 日 時 平成 17 年 6 月 16 日 (木) 14 : 30 ~ 17 : 00

2 場 所 千葉県東京事務所

#### 3 出席者

( 専門部会 )

部会構成員 小川 康恭

部会構成員 近藤 一博

( 千葉県 )

天野衛生研究所長

木村健康福祉部副技監

保坂衛生研究所次長 ほか

\* 岡部部会長には 6 月 22 日に説明を行った。

#### 4 内容

( 1 ) 平成 16 年度課題評価結果の対応報告

( 2 ) 平成 17 年度研究課題の選出について

( 3 ) 研究課題説明

#### < 第 2 回 >

1 日 時 平成 17 年 7 月 27 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00

2 場 所 千葉県東京事務所

#### 3 出席者

( 専門部会 )

部会長 岡部 信彦

部会構成員 近藤 一博

( 千葉県 )

木村健康福祉部副技監

保坂衛生研究所次長 ほか

#### 4 内容

平成 17 年度課題評価結果のまとめ